

Special GUEST!

ロスト パレス

Lost-in Palace

その小冒険は、

いつもの町の
近所の路地から
始まった。

わたしのさがしものは、みつげにくいものでした。

今井哲也

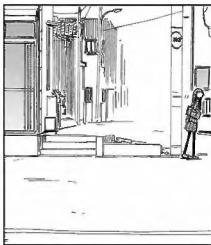
第17回「文化庁メディア芸術祭」マンガ部門新人賞受賞作
「アリスと蔵六」①～⑤巻発売中!
(小学コミックス/徳間書店)

Imai Tetsuya



2





3



これは、
ギフトカタログの
注文ハガキ。



ポストが消える
なんてこと、
あるのかしら。

— ない...

父が先日、
結婚式の
引き出物にもらって
きたモノだ。

祐未ちゃん。

すき焼きセットと
しゃぶしゃぶ
どっちがいい？

しゃぶしゃぶね。

断固
黒豚よ。

おれ、その
財布が欲しいん
だけど…

パパは黙ってて。

両親が毎年
どっさり出す
年賀状。

母の応募する
懸賞ハガキ。

母とわたしで出す
福山雅治の
ライブの抽選。

小さい頃、

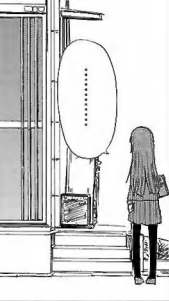
わたしは
ポストに手紙を
出しに行くのが
大好きな子供だった。

☆



という、
あの感触。

かすかな重さが
鉄の壁のむこうに
かざりと落ちる
気配。



まさか
こんなことに
なるなんて。



ガラガラガラ

うちに何か
ご用？



きびつくり
した。

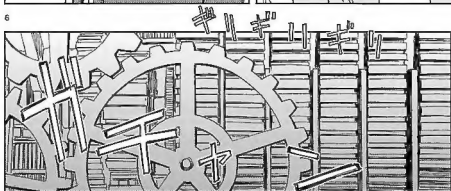
この家の人、
初めて見たわ。



覚えてないわ。

そこに
そんなもの、
ありましたっけ。

……は？
ポスト？



わたしは
ポストを探す
ことにした。

ポストは、
皆の記憶から
忽然と消えていた。

[null]



ポストおー？

しらない。



なにしろ、

わたしは
ポストが大好きな
子供だったのだ。



よく思い出して。
このカドに
あったハズよ。

あなたたち
ここが通学路
なんでしょ。

うん。

けど知らない。

ねー行こうよ。
知らない人と
話したら
ダメなんだよ。



—みんな、

なんだっけなー。
すごい楽しい夢
だったのにな。

えー？



ポストなんて
あったかどうか
覚えてないよな。

うん。

あ、私
きのうの夜
夢見たんだけど
忘れた。

そんなことで
いいのだろうか。

もっと、きちんと
覚えておかなくて
いいのだろうか。

これでは何かが
こっそり別物と
入れ替わって
いたとしても、
気づけない。

ポスト？
あったっけ。

いやあ、
覚えてないな。

いや？
なかったんじゃ
ないかな。

あれば絶対
こいつがマーキング
してるから
覚えてるよ。

ハハハ。

あなた、
まだいたん
ですか。

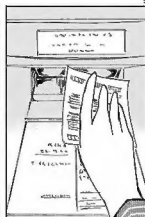
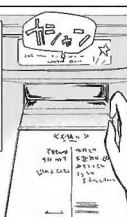
なんなのよ。
警察を
呼びますよ。

あるいは突然、
なくなつて
しまったとしても。





9

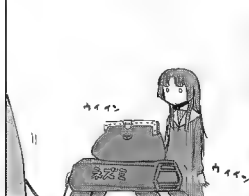


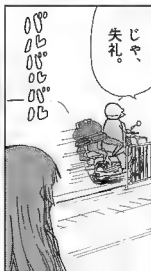


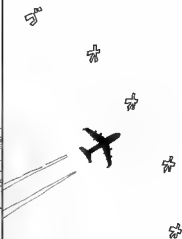


11









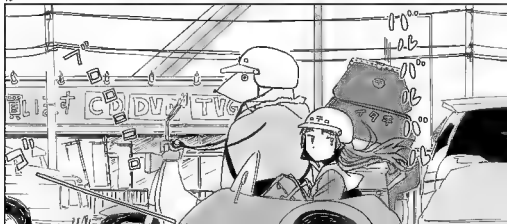
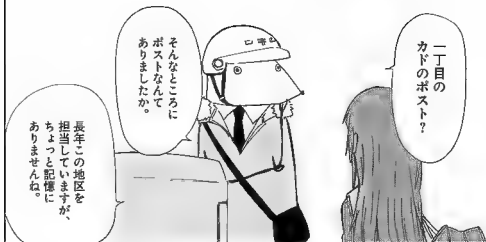
14

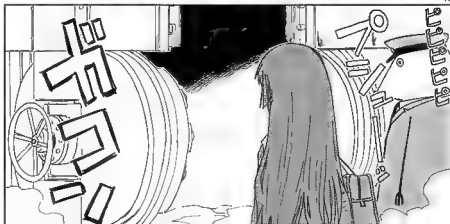




15









郵便局の地下は
こんなふうにな
っているのね。

今日は、
知らなかったことを
たくさん知る日だわ。



これです、
どうぞ。

収集ルートは
企業秘密でして、
一部分しか
見せられません。
申し訳ない。



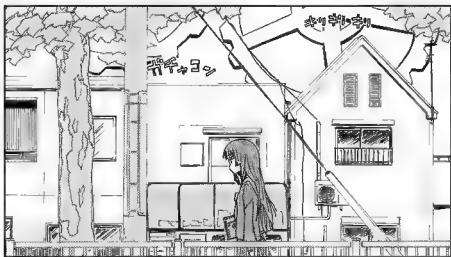
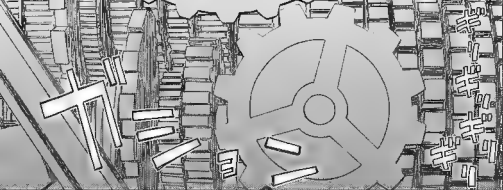
ポストのある
場所には
丸の中に
ポストの番号と、

横に収集時刻が
書いてあります。



お問い合わせの
場所というのは、
ここですね。

そこには、
なんの記号も
描かれていなかった。



わたしは毎日、
あのポストを
横目で見ながら
通学していた。

それが日課
だったのだ。

...それなのに。

これは報い
なのかしら。

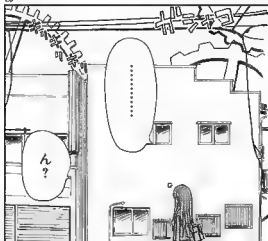
今まで、
あまりに適当にしか
世界を記憶して
こなかったことへの。

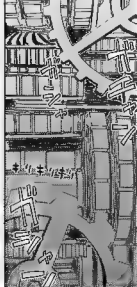
ものごとは
どんどん
忘れられていく。

Chull

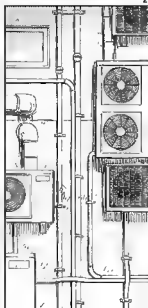
わたしの大切な
ポストはもう、

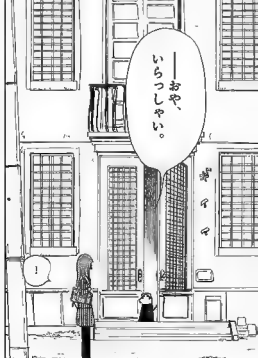
本当になくなって
しまったのだ。





気づくとわたしは、記憶のどこにもない路地へ迷い込んでいた。







——忘れたと
いう事実ばかり、

今日はおくさん
やってゐるんだ。

世界のすべての
記憶の宮殿は
ここに繋がって
います。

いわば最終
処分場。

宮殿のなかで
しまい込まれて
忘れられたものが
送られてくる。

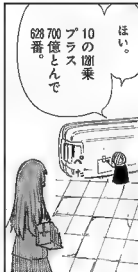
ガハハハ

カシカシ



ほい。

10の幽乗
プラス
70億とんで
628番。



——ようするに
ここは、

だれかの記憶から
うっかり抜け
落ちたもの、

なくなつたもの、

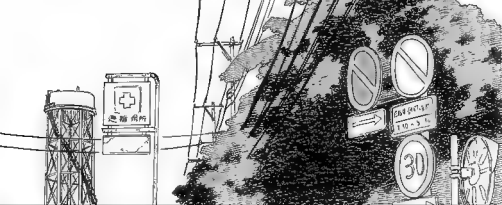
だれにも覚え
られないまま
どこかに行つて
しまったものの
一時保管所です。





24





25



251





26



これだけたくさん
のものが、

日々、
世界の誰かから
忘れられて、

誰にも気づかれず
ひっそり消えて
なくなっていく。

世界はつねに
何かを
忘れつつけて
いるのです。

宇宙のすべての
瞬間の、
すべての状態を
覚えてつづけてい
ることはできない。

なぜなら
そんなことをすれば、
いつかは
記憶だけで宇宙が
いっぱいになって
しまうからです。

倉庫番さん。

よって、
ご覧のように
世界は
特に脈絡もなく
変化し、

前がどうなっ
ていたかは適当に
忘れられます。

それはそれで
健全な営み
ですよ。

忘れたものが
思い出せなくても、
まあ、あまりお気に
なさらぬほうが。

.....

でも、



—そう。

忘れては
いけなかったのだ。

あの子の
手がかりはもう、

あのポスト
だけだったのに。

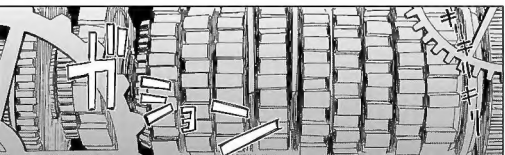
29

…いったん帰って
出直します。

でも諦めない。
すぐに戻ってきて
私のポストを
見つけてやるわ。

そうですか。

まあ
がんばって
ください。





そういえば
学校をさぼって
しまったのだった。

平日の昼間に
出歩くなんて
新鮮だわ。

30



小さい頃
わたしは、

ポストに手紙を
出しに行くのが
大好きな子供だった。

なぜなら文通を
していたからだ。

—あ。

さっき
ハガキだけ出して、
コンビニで
買い物するの
忘れた。

引越しても
わたしのこと絶対
忘れないでね。

やくそくよ。

わたし、毎日
手紙を書kow。

よくある約束。

でも、
わたしは元来
忘れっぽい性格で、

新しい土地で
友達もでき、
いつしか返事の
間隔は開いていった。

—これだから
わたしは。

あのギフトカタログの
注文ハガキだって、
ずっと忘れていたのを
ようやく出したのだ。

わたしはいつも
なにかを忘れ
つつけている。

あの子の住所も
もらった手紙も、

引越して何度か
くり返すうちに
どこかに消えて
しまった。



この町に
戻ってきたのは
10年以上ぶりだ。

顔も声も
ぼんやりとしか
思い出せない
あの子は、

まだ住んで
いるだろうか。



——ごめんね、
ちひろちゃん。

私、あなたの
名前以外、
何も思い出せな
くなってしまった。

もし、もう一度
会えるなら、
返事をさばったことを
謝りたいのに。

● 小冒険の終着点には……



ポストの前を
通りがかる
たびに、

忘れてしまった
あの子のことを
考える。

それがわたしの
日課だ。

[ロストイン・パレス]

完

今井哲也氏の再登場に
ご期待ください!